

## 「体育心理学」の授業評価

保健体育講座・田中雅人

### 1. 授業の概要

この授業では，体育・運動・スポーツを心理学的側面から研究するための科学的基礎を得ること，体育やスポーツ場面での運動行動の理解や指導に役立つ知識を修得することを目的とした。なお，到達目標を，1) 運動の学習と学習過程に関わる主要な概念，および種々の運動学習理論の変遷を説明できる，2) 運動の記憶や知識構造と運動学習との関連性を情報処理論的な立場から説明できる，3) 視覚を中心とした知覚システム，および情報処理の概念モデルを示すことができる，4) 主体的に実験実習に取り組みむことができるの4つとした。

3つの到達目標を達成するために，1) 運動学習の過程，2) 学習理論，3) 運動学習の理論，4) フィードバック，5) 運動の記憶，6) 運動の知覚，7) 状況判断の過程の7つの領域について概説した。また，2つの実験実習を行いレポートを課した。受講生は33名で，修得した知識をスポーツ実践や指導に一般化できることを主眼に置いた。授業では，プレゼン用ソフトを使用し，図表，写真，動画，アニメーションなど，その特性を有効に活用できるよう努めた。評価は，レポート，試験，学習状況を総合して行った。

### 2. 授業評価

以下の5領域・16項目に対する5段階評定と自由記述による調査を実施した。各項目の評定の平均値とヒストグラムを示した（図1）。

#### ●理解度

1. 授業の目的は，十分に達成された。
2. 到達目標は，十分に達成された。

#### ●授業内容

3. 授業は，シラバスに則して行われた。
4. 授業の進度・時間配分は，適切であった。
5. 授業のレベルは，適切であった。
6. 授業内容は，役に立つものであった。

#### ●教授方法

7. 説明は，わかりやすかった。
8. 質問や発言の機会が適切に与えられていた。
9. スライドの使い方は，効果的であった。
10. 配布資料の使い方は，効果的であった。
11. 教員の授業に対する意欲・熱意を感じた。

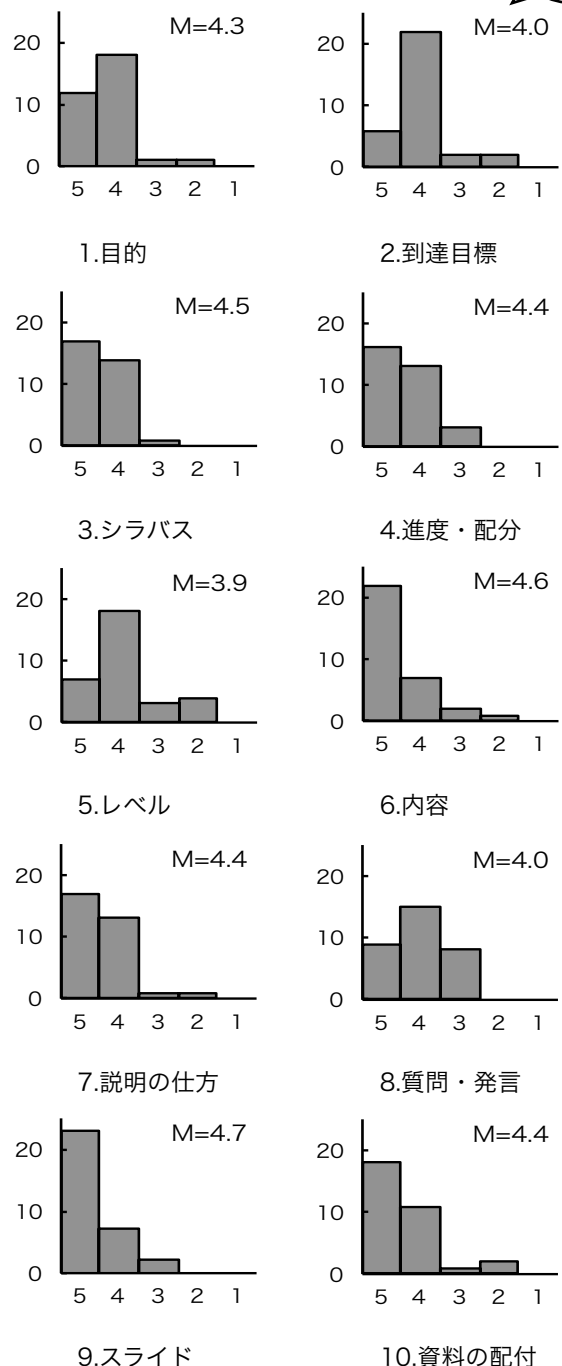
#### ●受講生の意欲・関心

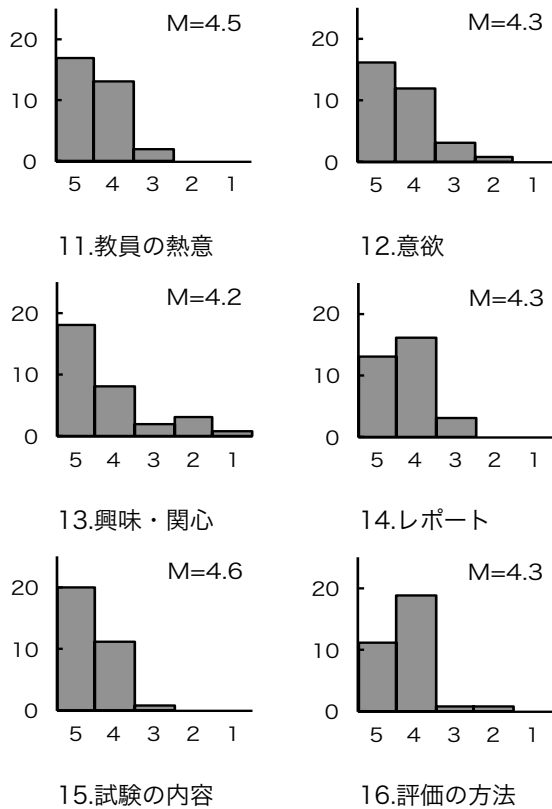
12. 授業に対して意欲的に取り組んだ。
13. 授業の内容に対して興味・関心があった。

#### ●評価に関わるもの

14. レポートの課題は，適切であった。
15. 試験の内容は，授業内容に則していた。
16. 評価の方法は，適切であった。

図1





### 1) 理解度

評定値は、4.0以上で、概ね達成されていたと思われる。自由記述にも「わかりやすかったので、とてもよかった」という記述がみられた。一方で、「もっと例を示した方がわかりやすい」という記述もあったので、次年度は例示を工夫するようにしたい。

### 2) 授業内容

「5.授業のレベル」を除いて、4.5前後の高い値を示した。特に「6.授業の内容」は高く、授業の目的である「体育やスポーツ場面での運動行動の理解や指導に役立つ知識を修得すること」を達成するために適切な内容であったと思われる。なお、「5.授業のレベル」の評定値が3.9で、やや難しいと感じている受講生もいた。また、授業は、ほぼシラバス通りに行われたことから、進度や時間配分についても目立った問題はなかったように思われる。

### 3) 教授方法

この授業では、板書は行わず、プレゼン用ソフト（スライド）を用いた。「9.スライド」の評定値は4.7と高く、また、スライドの内容を配付資料として配ったところ、「書くことだけに集中することがなかった」「考えることに集中できた」「テスト勉強がしやすかった」などの肯定的な感想が聞かれた。「11.教員の熱意」の評定値は4.5と高かったが、「8.質問・発言」の評定値は4.0であった。質問や発言する機会を必ず設けていたが、質問の内容や発言

を促す方法を工夫することが必要であった。

### 4) 受講生の意欲・関心

「12.意欲」の評定値は4.3、「13.興味・関心」は4.2と比較的高い値を示した。ただ、すべての学生の興味・関心に応えているとは言い難く、内容をさらに検討する余地がある。

### 5) 評価に関わるもの

評価は、2回のレポートと最終の試験、および学習状況を得点化して、その総合点としたが、「16.評価の方法」の評定値が4.3であったことからその方法は、概ね妥当であったと思われる。レポートに関しては「実習をしてレポートにすることは知識の定着になる」「レポートのときにしっかりと内容を復習するのよい」と肯定的な記述があった一方で、レポートの内容が難しかった」「もう少し説明が欲しかった」などの記述もあり、さらなる検討が必要である。

### 3. DPとの対応

この授業と対応しているDP1AとDP1Bに対する評価を示した（表1）。

表1

	DP1A	DP1B
①このDPとは無関係であった	2	0
②あまり貢献しなかった	5	2
③貢献した	13	11
④十分貢献した	6	13

(人)

DP1A（教育に関する知識の修得）とDP1B（得意分野の専門的知識の修得）のいずれに対しても「あまり貢献しなかった」から「十分貢献した」まで評価が分かれる結果となった。授業の目的が、体育やスポーツ場面での運動行動の理解や指導に役立つ知識を修得であったため、DP1Aの評価がやや低くなったと考えられる。また、この授業は、保健体育専修（学校教育教員養成課程）とスポーツ健康科学課程との合同授業であったが、特に、スポーツ健康科学課程の学生のDP1Aの評価が低く、教育との関連づけが難しかったと思われる。専門領域の知識の修得が目的ではあるが、教育全般に一般化できるような教授方法を今後検討していかなければならない。

他のDPについての評価では、DP4（興味・関心）が比較的高く、DP2（思考・判断）とDP5（態度）が低かった。この授業と直接対応しているDPではないものの、授業内容を考える際の参考としたい。